



# WCSプロジェクト



## カンボジアグラフィス診療所第1期プロジェクト報告

2008～09年青山快玄委員長、2009～10年戸田和孝委員長、2010～11年小林澄子委員長とバトンタッチされ、地区とクラブが手を携え自立し継続可能な診療所の開業を支援したプロジェクトです。

(写真) 運び込まれた重篤な患者に、応急手当をする責任者のピーター・リー博士とボランティアの医師とCDEPのメンバー。カンボジアはこのような多くの手助けにより国の回復が始まっています。



## 実施地

### カンボジア王国コンポンソム州コンポンセイラ郡オバックロテ自治区プレイプロセツ村



よそ行きの服で順番を待つ患者さん達



患者の対応で大忙しの医師達

この地域はカンボジアにおける43年に渡った内戦が、ポル・ポトの失脚により終了し、兵士が武装を解いて住み着いている山間で、道路・電気・水道も未だない地域です。

## プロジェクト規模と内容



2009年6月視察時の、建設途中の診療所  
2011年7月完成し、開所式を迎えた診療所



地区WCS基金より10,000ドル＝建物外構の舗装全般。MGを利用したWCS事業としてUS\$42,829＝医療器材、家具、ソーラーパネル寄贈。  
ホストクラブ・ブノンペン  
国際パートナークラブ・13クラブ  
東大阪東(代表)、大阪ネクスト、守口イブニング、大阪北梅田、大阪南、大阪鶴見、大阪フレンド、大阪南西、香里園、交野、大阪ユニバーサルシティ、高槻東、大阪北

総額5万2869US\$ (454万3294円)

## 経緯

日本の大学生医療支援の「グラフィス」がチャリティイベントを重ねて資金を作り、アメリカ人のピーター・リー氏が自費で2005年から取り組んでいる総合的農村開発プロジェクト「The Cambodian Dormitory and Education Project (CDEP)」に、東京に本拠を置く認定NPO法人サイド・バイ・サイド・インターナショナルを通じて診療所設立を計画した。大学生らは資材搬入の為に幹線

道路を整備し、診療所の基礎工事をした。  
私達は第2660地区の国際親善奨学生であった西口三千恵さんからの要請で、「グラフィス診療所」と名づけられたこのプロジェクトに支援を決定した。  
建物の仕上げは、資金的な問題と現地の技術的な問題で困難であったが、台湾フォーモサチャリティグループの援助でボランティアの職人が30人来て完成させ開所式に至った。



入口受付に掛かるRCのバナー

## 西口三千恵さんからのメール (2010年10月1日付)

おかげさまで、グラフィス診療所は毎日多くの患者さんであふれています。当初お伝えしましたとおり、診療所では最低限の診察料として5,000リエル(約125円)を頂いておりますが、80%以上の人が支払いできている状況です。日によりましては100%の支払いの場合も多くあります。現在、薬の価格を設定しており、今後はいかにして各家庭の経済状況にあった支払いを適切に見極め、促すことができるかが課題となってきています。グラフィス診療所は、着実に進歩しておりますし、地域の健康に寄与しております。今年度、また貴地区から多くのロータリアンの皆様が診療所を訪問くださり、その際に地域の健康に寄与している姿をぜひご覧いただければと思っております。今後とも、どうぞグラフィス診療所を温かく見守っていただければと思います。



再度現地を訪れ、仕上がり歓声を上げるグラフィスの大学生達